

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	Hospitality and Tourism I		（ TCH126 ）
講義名（コード）	TCH_Hospitality and Tourism Management I_A		（ TCH126A ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	飯田 誠一	時間数	30
成績評価教員	飯田 誠一	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講座は、関連分野で活躍した講師によるものである。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	①自分の視点を『消費者』から『ビジネスの作り手』へ転換させ、俯瞰的に観光ホスピタリティビジネスを理解できるようにする。 ②自分が持つ『観光』や『ホスピタリティ』に対するバイアスを外し、企業や社会における実際の取り組みやビジネスを客観的に理解できるようにする。 ③上記①②を踏まえて、観光ホスピタリティをビジネスの視点で捉え、理解したことやアイデアを自分で表現できるようにする。
全体の内容と概要	講義やグループワーク等を通じて、観光ホスピタリティビジネスの基本とその様々な形を学び、ビジネスを具体化していく手法の基本を学習する。 1.観光ホスピタリティ ビジネスの基本を学ぶ（概論） 2.観光ホスピタリティビジネスの形を学ぶ（観光の現場の事例や人を通して理解を深める）
授業時間外の学修	夏季休暇時期に、フィールドワーク活動も取り入れる。
履修上の注意事項等	授業スケジュールと内容は、進捗や祝日や学校行事等との兼ね合いで調整される可能性がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	自己紹介を通して、ホスピタリティとはなにかを考えるきっかけをつくる。サービスの基本は対人接遇にあることを身を持って体験する。	オリエンテーション／日本のホスピタリティとはなにか、学生の理解度を授業スタート時点の考えで、ホスピタリティとは、どのような原理でどのように行われるかについて自己紹介を兼ねてそれぞれ短時間で発表してもらう。時間的に難しいかもしれないが、全員演壇に立ち発表する。授業終了前20分ほどで、他の学生の考えを聞いた上で、自身の考えをまとめ、レポートとして提出してもらう。提出されたレポートを次週までに、講師が分類してまとめた表を作成して、翌週全員に配布する。
2	学び方に関する方法について習得する。なんのために学ぶのかを理解する。自己の考え方を纏めることができるようになる。	なぜ高等教育機関で学ぶのかを考える。高校までの学び方から脱却し新しい学び方を考える。 1. 社会課題を解決するために学ぶ。 2. 自分の人生を豊かにするための基礎としての学びとはなにか 3. ホスピタリティ分野の職業の価値はなにか
3	ホスピタリティを自ら考え日本のホスピタリティを定義する。海外のホスピタリティとの違いを理解する。	前々回の講義の続きで、学生の考えを分類したホスピタリティをリスト化し、日本におけるホスピタリティを定義するところまでの第二講とする。その上で、海外のホスピタリティについて概説する。海外と日本のホスピタリティのあり方、違いを理解し、これからの日本のホスピタリティのあり方を学生が考え、講義をうけて浅い段階での知識で、学生が考える日本のホスピタリティの未来に関するレポートを提出する。
4	職業別のホスピタリティ①	①客室乗務員のホスピタリティ I 日本における歴史と変遷をたどりながら、どのようなホスピタリティが現場でおこなわれているかを概説する。学生には、どのようなホスピタリティが行われているかを各自レポートを、授業中にまとめて提出してもらう。提出したレポートは次週以降に活用する。
5	職業別のホスピタリティ②	②介護士のホスピタリティ I 日本における歴史と変遷をたどりながら、どのようなホスピタリティが現場でおこなわれているかを概説する。学生には、どのようなホスピタリティが行われているかを各自レポートを、授業中にまとめて提出してもらう。提出したレポートは次週以降に活用する。
6	職業別のホスピタリティ③	③ホテルコンシェルジュのホスピタリティ I 日本における歴史と変遷をたどりながら、どのようなホスピタリティが現場でおこなわれているかを概説する。学生には、どのようなホスピタリティが行われているかを各自レポートを、授業中にまとめて提出してもらう。提出したレポートは次週以降に活用する。
7	職業別のホスピタリティ④	④居酒屋のホスピタリティ I 日本における歴史と変遷をたどりながら、どのようなホスピタリティが現場でおこなわれているかを概説する。学生には、どのようなホスピタリティが行われているかを各自レポートを、授業中にまとめて提出してもらう。提出したレポートは次週以降に活用する。
8	職業別のホスピタリティ⑤	⑤結婚式場のホスピタリティ I 日本における歴史と変遷をたどりながら、どのようなホスピタリティが現場でおこなわれているかを概説する。学生には、どのようなホスピタリティが行われているかを各自レポートを、授業中にまとめて提出してもらう。提出したレポートは次週以降に活用する。
9	社会貢献とホスピタリティビジネスの相違はなにか	社会貢献とホスピタリティビジネスの相違点を学生が考える。違いについて、全員で考えて、この場での違いを定義する。

10	ホスピタリティ産業は、なにを販売しているか	ホスピタリティ産業は、「もの」を売るのではなく、「サービス」を売り提供する産業である。サービスを提供することに価値をつけて販売する。仕組みとメカニズムを学ぶ。
11	ホスピタリティ産業は、在庫を持たないでなにを持つか	ホスピタリティビジネスの在庫とはなにかを考える。在庫をどのように捉えて考えるかが、ビジネスの第一歩となる。
12	ホスピタリティ産業の収益構造を考える。	大阪商工会議所を創設に尽力した五代友厚の理念たる「算用」と「信用」を考えてみる。その理念から収益構造はどのようにするべきであるかを学生自身で考える。
13	チームでの学習で、企画力、プレゼンテーション能力を養う。合わせて役割を意識しながら、相互に助け合えることができることを醸成①	最後の3回の授業はこれからのホスピタリティのあり方を考える授業とする。5つの分野のホスピタリティについて学んできたことを踏まえて、学生が考えるホスピタリティとは、どのようなことが真のホスピタリティかを考えをまとめる。チーム分けをしてディスカッションし、纏めたものを翌週に行う発表のための準備を行う。
14	チームでの学習で、企画力、プレゼンテーション能力を養う。合わせて役割を意識しながら、相互に助け合えることができることを醸成②	前回の続きを行う。授業参加の人数にもよるが、持ち時間10分で、チームごとの発表を行うことをする。発表後は、他のチームからの質問とコメントを行うことにより授業参加度を高める。
15	学びの振り返りとまとめ	いままでの講義のまとめとして、ホスピタリティの過去、現在、未来のあり方を時系列でまとめた授業とし、年表をつくりながら、時系列に理解を深め、未来を学生に描いてもらい、年表を完成させて提出してもらう。レポートは、未来のツーリズムを自身の知見と授業から自由な発想でまとめて提出してもらう。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	講師が授業中に別途指定することがある。
備考	ゲストスピーカーのスケジュールにより授業の順番を入れ替える場合がある。